

## 不登校児童生徒への対応事例 8（中学校第 2 学年女子）

### ～ S S Wを活用したチームによる支援～

#### 問題の把握

中学校第 2 学年の女子生徒 A は、小学校時代からの男子とのトラブルや他の友達からの心ない言葉が原因で疎外感を感じ、欠席や保健室登校が目立つようになった。また、家庭では、友達とうまく関わることができない苛立ちから、母親や妹に当たることが多くなった。

学校においては、スクールソーシャルワーカーと連携を図って支援計画を立て、スクールソーシャルワーカーが当該生徒の家庭訪問を行い、母親と当該生徒の面談を行うことになった。

このような中、当該生徒と以前から仲がよく、不登校状態にあった生徒 B とともに適応指導教室へ通級するようになった。

#### 対応状況

##### 保護者及び当該生徒への教育相談の実施

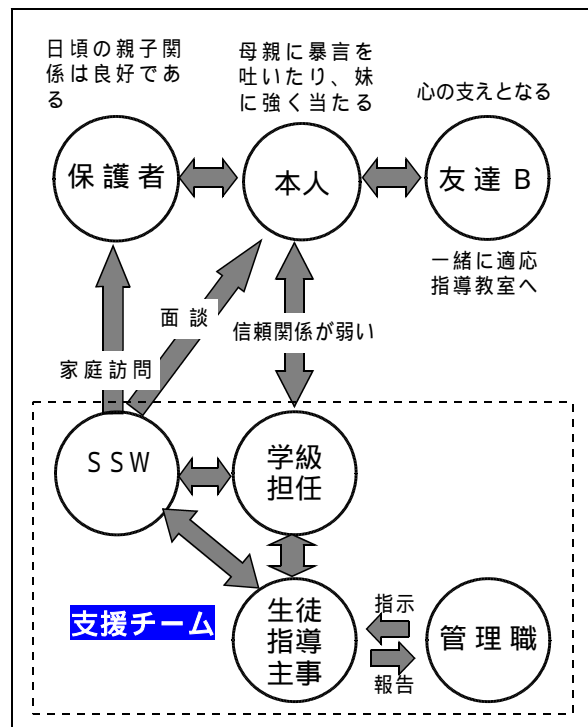
- ・第 2 学年に進級後、登校できない状況が続いたため、学級担任が繰り返し家庭訪問を行った。
- ・スクールソーシャルワーカーが学級担任と連携して家庭訪問を行い、家庭での当該生徒の様子や保護者の考えを聞くなどの面談を繰り返し行った。

##### 支援チームによる通級への支援

- ・当該生徒に適応指導教室への通級を促すことを学校全体で確認した。
- ・学級担任とスクールソーシャルワーカーが繰り返し家庭訪問を行い、保護者及び当該生徒との人間関係づくりに努めるとともに、適応指導教室への通級を促した。

##### 学校復帰に向けた取組及び学校復帰への兆し

- ・当該生徒は、通級指導教室において、生徒 B らとトランプをするなど、伸び伸びと生活する姿が見られるようになった。
- ・体育祭や学校祭の当日、活動には参加しなかったが、スクールソーシャルワーカーとともに登校し活動を参観した。



#### 不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・スクールソーシャルワーカーが、保護者及び当該生徒と繰り返し面談を行い、良好な人間関係を構築したことにより、適応指導教室への通級を積極的に促すことができたこと。
- ・支援チームで情報を共有し、対応方針について共通理解を図り、役割分担を明確にして取り組んだことにより、学校復帰に向けた兆しが見られるようになったこと。